

この度は、私なんぞのような者を「囲む会」と称してお呼びいただきありがとうございます。 「囲まれる」となんだか構えちゃいそうですが、そこは柏市、実は私、柏市というか、東葛地域のみなさんとは 10 年以上に渡りお付き合いがありまして（というか、とっても仲良くしていただいてまして）、リラックスしてみなさんと語り合えればと思います。

私のことは、囲む会でのお話の中にも出てくるのですが、兵庫県の伊丹市からやってきました。伊丹市は阪神間という大阪と神戸の間というか、そのあたりにあります。いわゆる関西人と言われたりする土地柄です。

私、関西人ではある（単にくだらな駄洒落を多発してしまう^-^;;）のですが、表記の名前から察していただけるかと思うのですが「在日朝鮮人（今は、韓国人）」三世なんです。苗字の「李」は、ハングル音では「い」、日本語音では「り」と読みます。氏が三つあったりで、なんとなく変かなあ、とか、なんでかなあと思ったりされるかも?ですが、正式には本名が「李 修慈」、通名が「国本 修慈」でして、実は高校を卒業するまでは本名を名乗ることはせず（できず?、させてもらえず?）でして、様々なことを知り、感じ考える多感な少年期である（あった）時期（高校を卒業する際）に「本名を名乗ろう」として就職活動に挑んだ（普通の進学校だったのですが、なかなか大学に行く経済力もなかった）のですが、ものの見事に 31 社連続不採用になっちゃったりで、さすがにノーマルな私（当時からシャイではありましたがノーマルでした^-^;;）も塞ぎ込み、引き籠もったりしたもんでした。

と、なんのこっちゃですが、色んな生き難さというか、なんだかおかしいこと（本名が名乗り難いとか国籍等による差別があったり）は在る訳ですね、今もおそらく。

今回、みなさんとお話し合い、考えたいことは、そんな「おかしいこと」だとか、されどもそんなこともなんとかならないのかな?とか、今も在る（あるいは増え続けている?）「生き難さ」等を感じつつ、この十数年の間に進められてきた「社会福祉基礎構造改革」（社会福祉のみではないですね）だとかによって整備されてきたという「生活の全般」（暮らし易さ）、「生きていく上での社会環境」等について、本当に「整備されてきた」んだろうか?とか、それ（のみ）によって、今後も「生活していく為のカたち」の整備がなされていくんだろうか?というようなことをああだこうだとやりたい訳です。

そういったことを考える際に大いなるヒントになるというか、私的に行き着くところは、ここ柏市で暮らします五十嵐正人さんの言う「もうひとつの」なんですね。

少しお堅い話になってますが、法だとか制度とかを否定するものではないのですが、「より良い暮らしを」だとか「社会保障」だとかのみの言葉ではどうにもならないことが、やっぱり 10 数年前も今も「在る」訳でして、そのことは、この流れがこのままの流れで在るとすると、この先 10 年後も同様の、もしくは新たな「生き難さ」が産まれていくんじゃないだろうか?と、私、結構真面目に（普段は本当にふざけ過ぎているのですが）思っていま

して、じゃあ、どうすればいいんだろうか?というようなことを皆さんと考えたいという訳なんです。

そんなんで、私は在日関西人、あるいは在日ラー星人（ラーの会というのがありまして、解りにくいですが、囲む会の中でご説明したいと思います）ということで、みなさんと楽しいひと時を過ごせればと思っています。

で、今回柏市を訪れさせていただいたのは、「在宅医療」の研究助成を受けてのことなんです。その申請書だとか目的なんかは、この後に続く配布資料に記していますので、ぜひご覧くださいね。

この研究（私は研究者ではないのですが^-^;;）では、「もうひとつの」ということが大きなテーマでありまして、そして何より私が大切にしたいのは、こうしてお会いしたみなさんや、未だ会っていない、これから会えるかも知れない（会えないかも知れない）様々な方々との関わり・繋がり、端的に言うと「ネットワーク」とも言うのですが、既存のそれ（作りましょう、組みましょう、とか、こうあるべきだというようなもの）ではない交わり混ざり合いのような、音にすると（なかなか言葉には成り得ないので^-^;;）「むにゅむにゅ、うねうね」といったような染み渡り浸りあうような、そんな関係（どんなんや!ですが^-^;;）を創り出す、産み出す、いや、なんとか産み出せはしないかしら?ということなんです。

既に先月は山陰の出雲市、米子市を訪れさせていただきました。その際に私なんぞを米子市の「NPO 法人ぴのきお」さんや県立総合療育センターみなさんがとっても温かく歓迎してくださり（夜宴や宿泊もお世話いただいたり）、出雲市では始めて会う福田冴夏さん（彼女宅への訪問記も配布資料に入れさせていただいています）宅で様々なことをお話し合う中、なんとも言えない爽快感を感じ得たり、冴夏さんのお父さんが仰ったのですが、「国本さんとはずっと以前からの知り合いのようだ」というようなことが在り得たりで、そんなことが本当に大切なんじゃないかなあと思ったりするのです。

福田冴夏さんには余談がありまして、その 3 日後には、一家で私どものアジト（事業所をこう呼んでいます^-^;;）にお越しになられまして、その別れ際、思わず私は「じゃ、3 日後に出雲でっ!」と言ってしまう（もちろん冗談なんです）のですが、すぐさま父・功さんは「うん、待ってるよ!」と笑顔で応えてくれるんですね。

なんて言いますか、出雲と伊丹、とっても離れているのですが、「お隣さん」みたいな感じになっちゃうんですね。米子のみなさんも再三私らの地域にいらっしゃり、その際に楽しい交流を持たせていただく「お隣さん」というか「親戚」のような感じなんですね。

そして、柏市、東葛のみなさんとも同様なお付き合い（歴史的^-^;;大袈裟ですが…には最も古くから仲良くさせていただいています）をさせていただいていまして、今回も夜宴（この記事を書いている際には未だ予定なんです、私の感覚としての千葉のみなさんは、もの凄く呑むっ!^-^;;）や宿泊もばおばふさんにお世話になっています。

故郷の無い私にとっては、本当に嬉しいこれらのことで、柏というか東葛地域は私にと

って、とっても大切な故郷のようなイメージでもあったりするのです。

こんな繋がりはどうですか?、こんな交わりに混ざり合いは如何ですか?と、そんなこんなを繰り返し染み入り合わせていきたいと願っての研究（イマイチしっくりこない言葉ですね）なんです。

そして繰り返し考えたい「もうひとつの」ということ。私たち、なんだかんだと言いながら、既成のモノ・コトを基準にして物事を考えてしまう傾向が在ったりするのですが、例えば既成の福祉制度等ではどうにもならない様なこと（例えば24時間の暮らしを共にするだとか、医療的ケアをどうするのか?だとか）を私たち阪神間での実践等をお示ししつつ考えていきたいと思うのです。

そして、これも日々感じることとしての「実践」という言葉の持つ意味。ここでもこれまでの、例えば支援者の実践、あるいは法人の実践ということのみではなく、ご本人さんの「実践」として、その言葉を捉え示してはいけないか?ということ。私たち、日々の関わりを通して感じることは、やはり多くの障害者・児といわれる方々（この言葉についても考えていきたいと思います＝決して、それぞれの人たちは、例えば呼吸器の〇〇さんだとか重心の△△さんという呼び名ではなく…というような）の持つ力（決して言葉だとか計算力などではない）によって私たちが呼応し新たなというか、おそらくその人らしい暮らし・生き方が作られてきたということを示していければと思っています。

もちろん、そこには羨ましいような実践もあるでしょうし、なかなか満足できない、あるいは悲しいような実践もあるのかと思います。そんな様々なことをみなさんと考え感じながら、これからのことを語り合えればと思っています。

とにかく、今回の目的は、お集まりいただいたみなさんとの語り合いと交わり混ざり合いです。そんなんで、心から、この機会をきっかけに今後とも仲良くしていただければと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

「もうひとつ」について参考になるサイト

もうひとつの福祉 その成り立ち

<http://mouhitotsunofukushi.seesaa.net/article/272236908.html>

もうひとつの福祉 「願い」をそのまま

<http://mouhitotsunofukushi.seesaa.net/article/272486265.html>

もうひとつの福祉 ご兄弟

<http://mouhitotsunofukushi.seesaa.net/article/272993208.html>

ほのさんのバラ色在宅生活 大切にしなければいけない、「ネットワーク」の意味。

<http://honosan.exblog.jp/17722054/>

この書面は、公益財団法人在宅医療勇美記念財団の助成によるものです。